

第4回 音声データによる鳥類のモニタリング ADAM (Acoustic Data for Avian Monitoring)

— IC レコーダーを使った鳥類相，生物季節の調査 —

世話人 石田健・植田睦之

鳥類のモニタリングに音声情報を活用していく可能性，考え方と最適な技術の共有について，情報交換し，提案をしていくきっかけにすることを目的に，この集会を行う。研究者が鳥類の存在を確認する情報として，音声を利用する割合は実際にそうとう高い。

2006年11月に発売されたタイマー機能を持つICレコーダーは，録音容量も大きくなり，PCM録音ができる機種も最近発売された。これを使うと1～3ヶ月間といった長期にわたる自動録音が可能である。このように長期間のデータ蓄積が可能になったことにより，これまでの人による調査では困難だった事象，たとえば夜行性鳥類の生息状況の把握や，遠隔地におけるさえずり開始時期など生物季節の把握などが可能になった。

しかし，ICレコーダーの設定・設置方法，得られる膨大なデータの効率的な解析方法等，課題も多い。4回目になる本集会では，ICレコーダーを使った長期調査をはじめている3～4名による，得られた結果や課題についての報告をうけ，この手法を使った鳥類のモニタリングの可能性について情報交換したい。

話題提供：

石田健：山原から秩父まで、春の長期モニタリング結果の概要

各地の森林7カ所ほどにICレコーダーを設置し，夜明け前後から3～4時間の録音を2～3ヶ月連続して取得した。録音内容，聞き取りのコツ，「とはいえやはりまだたいへん」な話し，異なるアプローチ，今後の期待など，薄く，広く，音を流しながら紹介します。

高木憲太郎：録音によるキビタキ渡来時期の調査手法の検討

標高の高い場所でのキビタキの渡来時期を知るため，全国6カ所の方にICレコーダーの設置を依頼して調査を行いました。その結果を紹介するとともに，録音がうまくいかなかった事例をもとに，この調査の注意点についてお話したいと思います。

植田睦之：環境省モニタリングサイト1000での長期録音導入の検討

環境省の「モニ1000」森林調査では，植物と鳥の生物季節をモニタリングするために，今年から長期録音の試行をはじめました。その結果を紹介します。

その他、数人：使用者の声（ビデオレター、インタビュー録音による紹介）